

### 【3】研究の取り組み

昨年度までの実態把握や研究の構想の組み立て、授業づくりに引き続き、今年度も授業づくりについて考えてきた。昨年度にも、授業づくりを実践しながら研究してきたが、今年度我々がめざしている授業とは何かを今一度振り返って確認する必要を感じ、それを共通理解した。その確認した事項とは、まず、我々がめざしている授業とは、「子どもたちがいきいきと活動している授業」ということである。言い換えると、「子どもたちが意欲を持って取り組める授業」である。そのためには、次のような条件を満たした授業でなければならないと考えた。

#### ① まず子どもたちにとって興味や関心がある授業

活動そのものが得意、できるという自信がある、友だちがしているのを見ると面白そう、してみたいと思う活動が用意してある。また、指導者の立場からは、教材・教具の工夫や教材の提示の仕方、子どもたちが興味や関心が持てる活動を取り入れていくことに留意していく。

#### ② できそうだという見通しを持ち、分かる授業

a. 学習の流れが子どもの気持ちに沿っていて、子どもたちがスムーズに受け入れられる b. 真似してできる c. 指示がわかる d. 教具の使い方がわかる という観点にそって授業を組み立てていく。

#### ③ していて面白い授業

集中できる・五感や身体を使うことが楽しいという授業を展開していく。

#### ④ 認められる授業

子どもたちがしたことや言ったことを友だちや指導者が受け入れ、喜んだり期待した反応を示したりすることを心掛ける。また、家の人にも認めてもらうように、生活ノート（家庭との連絡帳）や学級通信等を通して連携をとっていく。

#### ⑤ 満足できる授業

自分がしたという成就感や自分でもできるという自信が持てる授業を展開していく。

このような条件を満たした授業を繰り返していくことによって、子どもたちと授業者とが共感し合え、さらに授業者は、子どもたちが表現したいという意欲を見つけ、その未熟な表現の方法を膨らませていくことができると考えた。

以上のことを確認したあと、本年度は、

a 関わり合う指導者特に補助的指導者について考えてみること

b 今どういう段階にあり何をめざしながら何をどう留意して授業していけばいいかを考えるために、子どもたちの実態を見つめなおすこと

にした。そして、これに基づいて授業づくりを実践していこうとした。

まず、補助的指導者の役割としては、

#### ①指導者のねらいを果たすための補助として

a チーフの問い掛けや指示を個に応じたことばで分かりやすく説明するためにその子だけに聞こえるように耳元でささやく（セルフトーク） b 着席

行動や注視を促したり、注意喚起したりすることによって、学習の体勢づくりをする。c子どもの  
の眩みや思いをチーフや他の子どもたちに伝える（パラレルトークを含める）。

②子どもに対する援助として、a. 行動のモデルを示す b. 発言を促すために、ヒントを出す  
c. 会話のモデルを示す（モデリング） d. 正しい発音や言葉の使い方を聞かせる（リフレクテ  
ィング） e. 意味や文法を広げて返していく（エキスパンション）

という補助のほかに、自信を持たせる・教師が近くにいて見守ったり共感したりすることで、安心感  
を持たせる・士気を高揚させるという役割もあると考えた。

発達の段階については、次の児童の実態で詳しく述べるが、一部の児童の段階や目標を掲載してお  
く。詳細については、個人事例の項で述べたい。

E男 自我の拡大・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験したことを繰り返す、今を楽しむ。楽しい活動を増やしていく。</li> <li>・次に楽しみがある生活を経験し、次にある楽しみへの見通しをつくる。</li> </ul>
M子 自我を充実させなが ら自制心も育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これをしてから次これをするというある程度のものごとや行動の順番が 自分の頭の中で分かる。</li> <li>・先に楽しいことがあることがわかる。</li> </ul>
U男 自我を充実させなが ら自制心も育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・怖くない自分にもできるという見通しを持ち、挑戦していく。</li> <li>・「嫌だけどあとちょっとで終わる」「ここで我慢すれば次にこんなこと がある」といったことが少しわかる。</li> </ul>
A子 自我を充実させなが ら自制心も育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなことや好きなものを見通して楽しみにして生活する。</li> <li>・私も欲しいけど、友だちも欲しいから少しだけ譲ってあげる、ちょっと だけなら我慢できるなど自分なりに気持ちを少しセーブする。</li> </ul>
O男 自己客観視の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇君は～が好きだから譲ってあげる」「〇〇くんのためにゆっくり 歩く」等、人の立場や自分の立場がわかり、見通しを持って行動する。</li> <li>・1日、単元、学期等の行事や学習に見通しを持って考えたり発言したり する。</li> </ul>
T男 自己客観視の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の立場がわかり「自分が～したら、〇〇君が～なる」ということが わかり、考えて行動する。</li> </ul>

#### 【4】児童の実態

小学部の16名の児童は、表1のような学年でクラス編成している。また、表2のような障害を持っ  
た児童によって構成されている。

表1 学年別実態

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
人数	4名	3名	2名	1名	4名	2名	16名
学級	1組	2組		3組			

表2 障害別実態

主障害	てんかん	自閉的傾向	ダウン症	もやもや病	孔脳症	水頭症	精遅神発達滞
人数	3	1	4	1	1	1	5